

夏休み平和学習

平和について考え、未来へ語り継ぐ

太平洋戦争から74年、戦争体験者が減り、戦争の記憶が風化するなか、過去から学び、次の世代に戦争の悲惨さと平和の尊さをいかに語り継いでいくかが重要です。今回は、市内中学生が牛久市平和使節団として広島を訪問した報告と、下根中学校で行われた戦争体験者による特別授業についてご紹介します。



見て・聴いて・肌で感じた平和の大切さ

牛久市平和使節

戦争の悲惨さ、平和と命の尊さを学び、多くの人に伝えていく

戦争経験のない子どもたちが「平和大使」として被爆地を訪れ、現地で行われる平和学習に参加する牛久市平和使節派遣事業。今年も、市内中学校の代表生徒15人（2年生）が、市内在住の戦争体験者に話を聞くとともに、7月24日から26日にかけて広島市を訪問しました。

牛久第二・第三中学校



牛久南中学校



下根中学校



牛久第一中学校



平和使節団に参加した生徒たちが学習の成果をまとめたパネル。「牛久市民文化祭」の小中学生作品展コーナー（10月16日（水）～20日（日）まで）、また各中学校の「校内平和の集い」で掲示されます。

広島では、平和記念公園やさまざまな資料館の見学、被爆者による被爆体験講話等を通して、戦争の悲惨さや、平和と命の尊さなどについてそれぞれ考えを深めました。

生徒たちは、各中学校における「校内平和の集い」で学習の成果をまとめたパネルを発表するなど、自分たちが「見て・聴いて・感じたこと」を、より多くの人に伝えていきます。

戦争体験者の生の声を聴く

平和学習 特別授業

平和とは何か
体験から伝える

下根中学校では、1年生の総合的な学習の時間において、近隣在住の戸張礼記さんから生徒に戦争体験の話を聞いていただきました。戸張さんは、予科練（海軍飛行予科練習生の略称）に入隊した戦争体験者です。予科練とは日本海軍の飛行機搭乗員を養成する制度で、昭和5年（1930年）に誕生。14歳半、17歳までの少年を試験で選抜し、20歳までには一人前に育成します。終戦まで



特別講師
戸張 礼記さん
阿見町予科練平和記念館
歴史調査員

問 生涯学習課
☎871-2301

～広島訪問を終えて～



牛久一中 いいだ なつき
飯田 夏希 さん

広島では命が失われる残酷さや核兵器の恐ろしさを伝えるため、被爆建物は未だに残されています。当時の様子は、私が想像していたよりも遥かに悲惨なものでした。戦争は誰も幸せにしないのです。今回の経験を忘れず心に留めておきたいです。

牛久一中 いしつか みつき
石塚 光希 さん

今回の学習を通して、改めて平和の大切さを理解することができました。また、将来再び広島を訪れた時は、今以上に発展を遂げた平和な街であってほしいと願います。そして核兵器の無い平和な世界になるよう、私もできることから取り組んでいきたいと思います。

牛久一中 たけうち あや
竹内 彩 さん

被爆者の方々のお話を聞き、原爆の威力の大きさを知りました。想像してください。自分の住んでいる街が、一瞬にして建物が吹き飛ばされ、死体であふれかえるのを。この事実を風化させてはならない。そして、この世界に核兵器はあってはならないと思いました。

牛久二中 あらき ちよ
荒木 千陽 さん

今回の広島訪問で、さまざまなことを直接、肌で感じることができました。今後、いろいろな形で学んだことを一人でも多くの人に伝えていきたいです。そして何よりも、8月6日の出来事が人々の記憶からなくなることがないように努力していきたいです。

牛久二中 しらかわ はゆ
白川 葉由 さん

私が、今回印象に残ったことは、被爆者体験者の方の話です。「世界を平和にするには、ささいな揉め事を無くすこと」そのためには、「相手に自分を知ってもらい、自分も相手を知ること」。この言葉が忘れられません。戦争が起こらないよう、私は伝えていきたいです。

牛久三中 かたぎり たくと
片桐 琢斗 さん

今回広島を訪問して、一番印象に残っているのは、原爆の恐ろしさです。8月6日という何気ない普通の日が、たったひとつの原爆によって地獄のような景色に変わってしまったことを聞き、僕は、戦争を起こさずに平和に生きていきたいと思いました。

牛久三中 たかはし せな
高橋 聖菜 さん

実際に広島を訪問し、平和記念資料館、原爆ドームや本川小学校などの被爆建造物を見学して、学ぶ機会の少ない戦争や原爆のことを自分の目で見ることができ、改めて戦争や原爆の悲惨さを実感しました。そして、戦争は二度と起こしてはいけないと思いました。

下根中 いで あい
井出 碧 さん

平和使節団として広島を訪問し、たくさんの悲しみや願いを聞きました。被爆者の長尾さんの「相手を受け入れることが戦争をなくすことに繋がる」という言葉が印象に残っています。些細なことでもけんかをしている人に広め、争い事がないように伝えていきたいです。

下根中 ごとう まさと
後藤 聖飛 さん

僕は今回の訪問を通して、戦争は想像以上に残酷なものだと分かりました。被爆者の長尾さんと登世岡さんの話は、今の生活からは考えられないくらい苦しいものでした。僕は互いに理解し、認め合うことが、戦争のない平和な世の中を作ると考えます。

下根中 もり まお
森 麻緒 さん

今回広島を訪問して、直接街の様子や資料を見たり、語り部の方々の話を聞いたりして、改めて、原爆や戦争の恐ろしさを知ることができました。広島で学んだことを学校や地域の方々に伝え、未来を担っていく私たちが、この平和を守っていききたいと感じました。

下根中 よこかわ たく
横川 巧 さん

被爆した街の様子や遺品を見たり、語り部の方の講話を聞いたりして、戦争がいかに悲惨なものか知ることができました。戦争体験者が少なくなっている今、広島訪問で学んだ原爆の恐ろしさや戦争の悲しみを僕が身近な人に伝え、平和な世界にしていきたいです。

牛久南中 さくらい ゆの
櫻井 夢希 さん

私が広島に行って印象に残っていることは、今でも被爆建物として残る本川小学校の教頭先生のお話です。「世界が平和になるためには、まず身の回りを平和にしなければいけない」これを聞いて私は、自分の学校から、平和を築いていきたいと思いました。

牛久南中 のなか ことみ
野中 詞美 さん

私が広島を訪れてとても心に残った言葉があります。それは、「少人数ですら平和が築けないのに世界が平和になるわけがない。だから74年も戦争が無くならない」という言葉です。世界が平和になるために、私たちも小さな平和をたくさん築こうと思いました。

牛久南中 はぎの なるみ
萩野 成実 さん

私は、今回の平和学習をきっかけに、さらに広島原爆について知りたいと思いました。訪れた場所はどれも目をそむけなくなるほど悲惨なものばかりでした。「お互いのことを考えれば戦争は無くなる」ということを胸に刻み、普段から心掛けていきたいです。

牛久南中 まき あい
真木 葵衣 さん

「ちっぽけな空間が平和にならない」という本川小学校の先生の言葉から、クラスなどの小さな空間を平和にするために、優しい心で思いやりの行動をしていこうと思いました。ちっぽけな空間を平和にしていこうこそが、本当の平和なのだと実感しました。



▲予科練で隊員の懲罰に使用された「バター」

生きる力とは、思考力・判断力・表現力と同じだと熱い思いを伝える戸張さんの言葉に、真剣な表情で聞き入っていた生徒たち。とても貴重な体験となりました。

の15年間で約24万人が入隊し、うち1万9000人ほどが戦死、殉職しています。戦争末期には、飛行訓練が中止され、敵に体当たり攻撃をする特攻作戦の要員として各部隊に配属された予科練生も多くなりました。特攻には、飛行機に爆弾を積んで敵艦船に突入する「神風」や、人が乗りこんで敵に突撃する人間魚雷「回天」などがあり、戸張さんの先輩たちが参加しました。戸張さん自身も肉弾特攻作戦「土龍」の訓練中に終戦を迎えています。戸張さんは、これら特攻作戦で命を落とした先輩の「遺書」を紹介し、「戦争を二度と繰り返してはだめだ」と涙を流しながら訴えました。「平和を護るとは、皆で和やかに、命の安全・安心を護ることである。平和に

の15年間で約24万人が入隊し、うち1万9000人ほどが戦死、殉職しています。戦争末期には、飛行訓練が中止され、敵に体当たり攻撃をする特攻作戦の要員として各部隊に配属された予科練生も多くなりました。特攻には、飛行機に爆弾を積んで敵艦船に突入する「神風」や、人が乗りこんで敵に突撃する人間魚雷「回天」などがあり、戸張さんの先輩たちが参加しました。戸張さん自身も肉弾特攻作戦「土龍」の訓練中に終戦を迎えています。戸張さんは、これら特攻作戦で命を落とした先輩の「遺書」を紹介し、「戦争を二度と繰り返してはだめだ」と涙を流しながら訴えました。「平和を護るとは、皆で和やかに、命の安全・安心を護ることである。平和に

